

# 北海道浮魚ニュース

令和元（2019）年度 6号

2019年 6月 28日

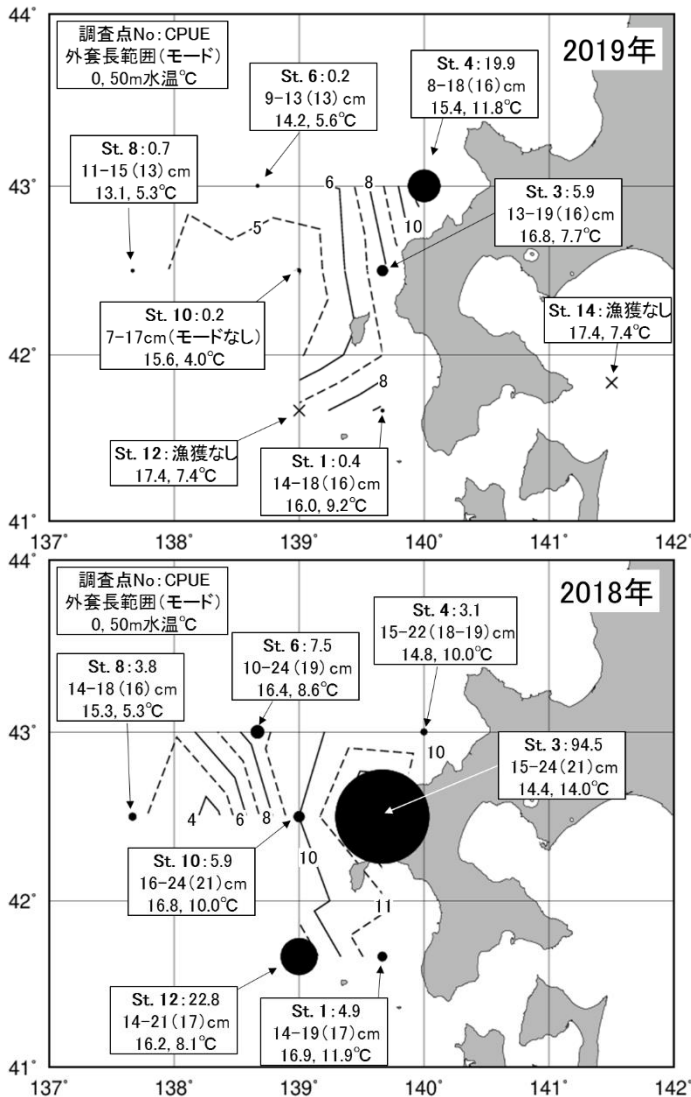
道総研 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

6月18日～26日の期間、北海道渡島大島周辺から島牧北方沖にかけての日本海と太平洋（恵山沖）で、函館水産試験場調査船金星丸（151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は昨年及び過去5年平均を下回った。
- ・スルメイカのサイズは昨年及び過去5年平均よりも小さい。



### 1. 水温分布 (図1)

漁獲調査点 8 点の表面水温は 13.1～17.4°C（昨年 14.4～16.9°C）、深度 50m 層の水温は 4.0～11.8°C（昨年 5.3～14.0°C）でした。

深度 50m 層の水温は昨年と同様に沖側で低く、沿岸で高くなっていましたが、沖側では昨年よりも水温が低く、奥尻島の西側では 6°C 以下となっていました。一方、スルメイカの分布の目安となる 10°C 以上の水温帯は島牧北方のみで見られ、昨年よりも狭い範囲でした。

図1 スルメイカ漁獲調査結果、●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例（1以下は同じ大きさ）。×は漁獲なし。等温線は深度50mの水温（°C）

## 2. 流向流速分布 (図 2)

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における流向流速と水温分布と照らし合わせると、8°C 以上の高水温域が沿岸寄りに分布していることから、対馬暖流は沿岸を北上していると考えられました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou/>

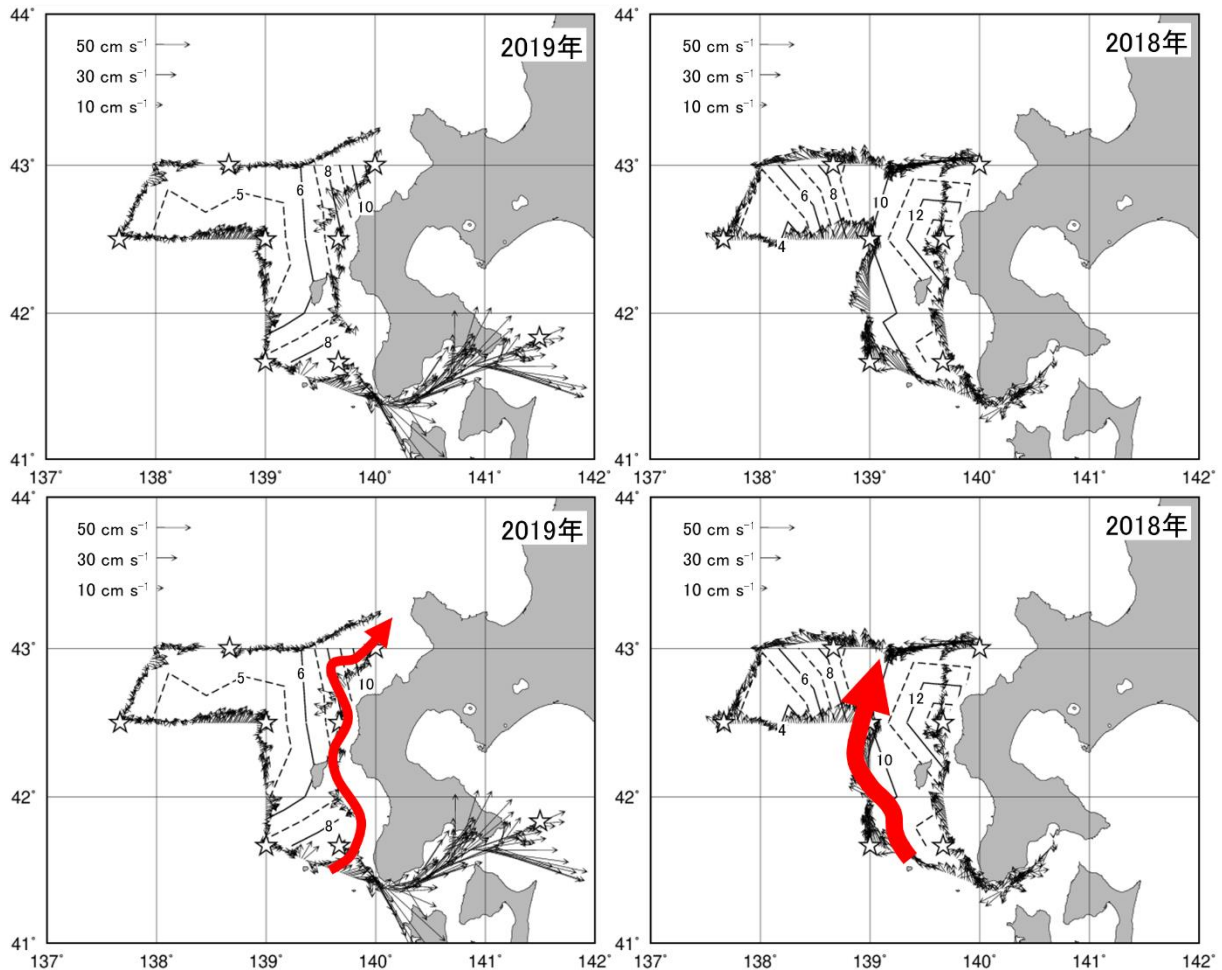


図 2 2019 年と 2018 年の深度 50m における流向流速 (上段) と対馬暖流の模式図 (下段)。等温線は深度 50 m の水温。☆は漁獲調査点。

## 3. スルメイカの分布密度 (図 1、表 1)

日本海の漁獲調査点 7 点の CPUE (2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0~19.9 (昨年 6 地点 3.1~94.5) の範囲で、最も CPUE が高かったのは島牧北方の St. 4 (19.9) でした。次に CPUE が高かったのは瀬棚沿岸の St. 3 (5.9) で、他の調査点では 1 未満でした。前年に最も CPUE が高かったのは、St. 3 (94.5) でした。漁獲調査を行った 7 地点の平均 CPUE は 3.9 で前年の平均 (20.4) 及び過去 5 年の平均 (22.7) を下回りました。

また太平洋側の恵山沖 (St. 14) における調査ではイカ釣り機による漁獲はありませんでした。

表 1 2014年～2019年の6月漁場一斉調査での、日本海7調査点の地点別CPUE（尾/1台1時間）及び過去5年平均。

| 調査点    | 北緯    | 東経     | 概要     | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 過去5年 |
|--------|-------|--------|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| St. 1  | 41-40 | 139-40 | 上ノ国沖   | 27.0 | 4.7  | 7.2  | 2.0  | 4.9  | 0.4  | 9.1  |
| St. 3  | 42-30 | 139-40 | 瀬棚沿岸   | 84.8 | 20.8 | 12.6 | 7.7  | 94.5 | 5.9  | 44.1 |
| St. 4  | 43-00 | 140-00 | 島牧北方   | 45.1 | --   | 8.5  | 24.1 | 3.1  | 19.9 | 20.2 |
| St. 6  | 43-00 | 138-40 | 泊西方沖   | 70.1 | --   | 5.7  | 35.9 | 7.5  | 0.2  | 29.8 |
| St. 8  | 42-30 | 137-40 | 檜山西方沖  | 18.1 | --   | --   | 0.2  | 3.8  | 0.7  | 7.4  |
| St. 10 | 42-30 | 139-00 | 奥尻島北西沖 | 84.9 | --   | 25.6 | 6.8  | 5.9  | 0.2  | 30.8 |
| St. 12 | 41-40 | 139-00 | 渡島大島西方 | 15.1 | 16.9 | 47.4 | 8.2  | 22.8 | 0.0  | 22.1 |
| 平均CPUE |       |        |        | 49.3 | 14.1 | 17.8 | 12.1 | 20.4 | 3.9  | 22.7 |

### 3. スルメイカの大きさ（図1、図3）

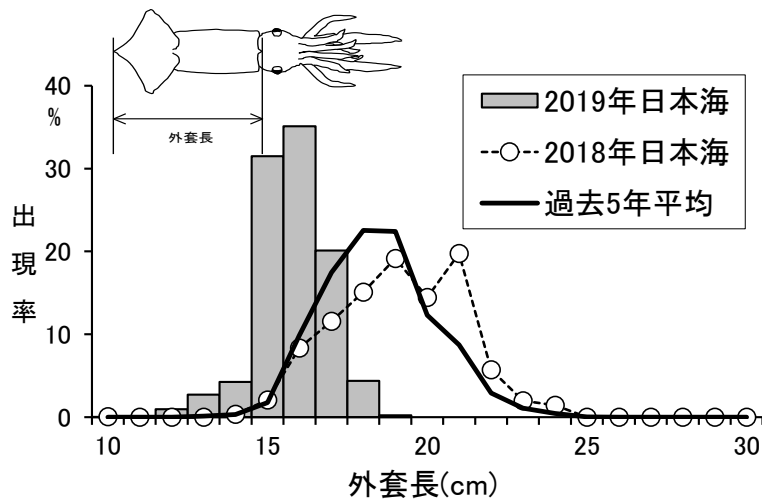


図 3 日本海スルメイカの外套長組成

日本海側7調査点のスルメイカ外套長（胴長）の出現範囲は7～19cm（昨年10～24cm）でした。最も多く出現したイカの大きさ（モード）は16cm（昨年21cm）で、前年及び過去5年平均より小型でした。各調査点のモードの範囲は13～16cm（昨年16～21cm）でした。

### 4. 標識放流（図4）

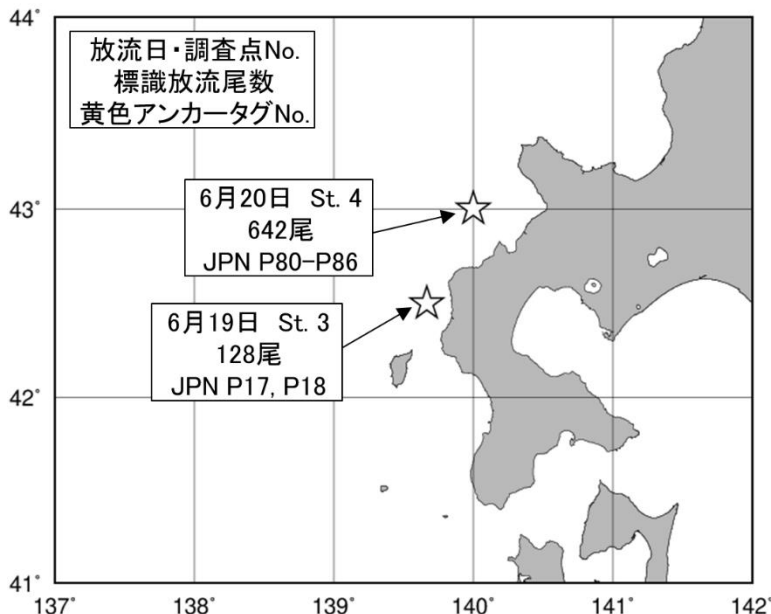


図 4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識番号

調査期間中、日本海の2調査点で合計770尾の標識放流を行いました（図4）。放流したイカにはヒレの付け根部分に、黄色の標識タグが打たれています。日本海では日本海区水産研究所の漁場一斉調査の一環として、他府県の機関でも同じタグを使用した標識放流が実施されています。標識のついたスルメイカを発見した方は、最寄りの水産試験場までご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。